

キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地に

琉球大学病院及び 同大学医学部が移転

沖縄健康医療拠点開所式

平成27年3月に返還されたキャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地（宜野湾市）では、今後の基地跡地利用のモデルケースとして、琉球大学病院及び同大学医学部の移設を中心とする沖縄健康医療拠点の整備が進められ、令和7年1月に琉球大学病院が開院、同年4月には医学部が開学しました。

令和7年3月16日には沖縄健康医療拠点開所式が開催され、林芳正内閣官房長官、伊東良孝内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策担当）はじめ約220人が出席しました。

式典では、林官房長官、伊東内閣府特命担当大臣等が祝辞を述べました。また、あわせて祝賀会も開催され、多くの参加者が沖縄健康医療拠点の門出を祝いました。



林官房長官祝辞



伊東沖縄担当大臣祝辞



開所式 祝賀会



開所式 記念式典

沖縄健康医療拠点整備の沿革

キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区は、平成25年4月に公表された「沖縄における在日米軍施設・区域の統合計画」に基づき、返還されることとなった嘉手納飛行場以南の駐留軍用地のうち、他の返還予定地に先駆けて、平成27年3月に返還された約51ヘクタールに及ぶ大規模な地区です。同地区には、跡地利用の先行モデルとして、沖縄に潜在する発展の可能性を最大限に引き出すとともに、今後返還予定の跡地利用を牽引する役割が求められたことから、宜野湾市においては、キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）の跡地利用の方向性を、「住宅系のまちづくり」から「沖縄の発展をけん引する都市機能を持つまちづくり」へと転換し、地権者と共同で跡地利用に向けた検討の具体化が進められてきました。

平成26年4月には、沖縄県・宜野湾市が、同年6月に沖縄県・宜野湾市・琉球大学が「国際医療拠点」形成に向けた支援をそれぞれ国に要請し、国際医療拠点の形成を跡地利用の中心とする方向性が明確になりました。

これらの動きを受けて、宜野湾市において、平成27年7月に沖縄健康医療拠点（策定当時の名称は国際医療拠点）の形成を中心とした跡地利用計画が策定されました。

「沖縄健康医療拠点」は、国際性と離島の特性を踏まえ、琉球大学病院及び同大学医学部を移設し、沖縄の健康医療体制の中核となる医療拠点として、「高度医療・研究機能の拡充」、「地



域医療水準の向上」、「国際研究交流・医療人材育成」の3つを柱とし、整備が進められてきました。

沖縄健康医療拠点には、沖縄振興への貢献や「長寿県沖縄」の復活、国際保健（グローバル・ヘルス）への貢献に寄与することが期待されます。

沖縄総合事務局における 跡地利用の取組

沖繩県の人口の8割が集中する県中南部における嘉手納飛行場以南の駐留軍用地については、平成25年4月に公表された「沖縄における在日米軍施設・区域の統合計画」に基づき、これまでに、今回ご紹介した、キャンプ瑞慶覧の西普天間住宅地区等が返還され、今後、約1000ヘクタールに及ぶ土地の返還が予定されています。

駐留軍用地の返還跡地は、地域にとって新たに生まれた利用可能な空間となり、これらの跡地の有効かつ適切な利用は、沖縄の将来の発展にとって極めて重要な課題です。

沖繩総合事務局では、跡地利用について主体的な取組を行っている市町村の支援を行うことを主目的に、市町村支援事業を実施しています。今後とも同事業における専門家の派遣、各種会議の開催等を通じて市町村等の実施する取組を支援し、駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に向け取り組んで参ります。

(参考)

西普天間住宅に関する
広報誌（宜野湾市HP）↓



お問い合わせ先

総務部 跡地利用対策課

098186610048

返還跡地・返還合意施設位置図

